

校長メッセージ ～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校 丹羽

感じのいい東長良中生になろう

表題は、令和2年度東長良中学校として目指している生徒像です。入学式の校長式辞、始業式の校長講話でも生徒たちに話しました。

唐突ですが、江戸時代は、260年以上もの間、戦争のない平和な時代が続きました。その平和で安心な社会を支えたのが「江戸しぐさ」という人づきあい、共生の知恵だったそうです。江戸しぐさは日本における江戸期の商人の生活哲学・商人道です。しぐさは仕草ではなく思草と表記するそうです。もともと商人（あきんど）しぐさ、繁盛しぐさといわれ多岐にわたる項目が口伝によって受け継がれたそうです。

主な江戸しぐさには以下のようなものがあります。

- 片目出ししぐさ・・・道路を渡るとき、右見て左見てまた右見て安全確認
- あいづちしぐさ・・・相手が話している時はしっかり聞き、話の腰を折らない
- 許すところ・・・相手に非があっても頭ごなしに怒らず、許す心の余裕をもつ
- 傘かしげ・・・雨の日に互いの傘を外側に傾け、ぬれないようにすれ違うこと
- 肩引き・・・道を歩いて、人とすれ違うとき左肩を路肩に寄せて歩くこと
- 時泥棒・・・断りなく相手を訪問し、または、約束の時間に遅れるなどで相手の時間を奪うのは重い罪にあたる
- うかつあやまり・・・たとえば相手に自分の足が踏まれたときに、「すみません、こちらがうかつでした」と自分が謝ることで、その場の雰囲気をよく保つこと。
- 七三の道・・・道のど真ん中を歩くのではなく、自分が歩くのは道の3割にして、残りの7割は他の人のためにあけておくこと
- こぶし腰浮かせ・・・乗合船などで後から来る人のためにこぶし一つ分腰を浮かせて席を作ること

「七三の道」は、エスカレーターで似たようなことがあります。右か左か、地域によって違いますが、急ぐ人のために片側を空けておくというのは江戸しぐさの一つだと思います。

ところで、これらの江戸しぐさ、「全部やっています。当たり前です。」という人はどれくらいいるでしょうか。私は、残念ながら自信をもって「すべてやっています。」とは言い切れません。

時として、自己中心的な振る舞いは、誰かを傷つけたり、思わぬ事件に発展してしまったりすることがあります。そこで、人と人とが気持ちよく暮らしていくためには、江戸しぐさのような気遣いと工夫が必要です。大人も子どもも、家庭でも学校でも、互いに思いやり、助け合うことの大切さを教えあうことはとても大切なことだと思います。

ここまで述べた「江戸しぐさ」のお話は、「それ恕か、己の欲せざる所は、人に施す勿れ」という、孔子の教えと通ずる心の在り方だと思います。国は違っても、先人たちが世に広めようとした「人と人とが気持ちよく暮らしていく」ための知恵です。こういった素晴らしい知恵は、学校でも家庭でも地域でも広め、伝承していきたいものです。「あれをしなさい、これをするな」というばかりでなく、「江戸っ子のように粋にやろう」「感じのいい東長良中生になろう」といった方が、子どもたちも前向きに生活していけそうな気がします。そのための一番基になる考え方は「互いの存在を認め尊重する」ことです。